

---

# 狂いの森

夢喰い

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狂いの森

### 【Zコード】

Z8929C

### 【作者名】

夢喰い

### 【あらすじ】

ある罪人達が犯した罪を、星達は絵本を開き幻想（罪）を罪人達に語りかける・・・。

### ・・・喜劇のはじまり。

ある素敵な夜の出来事です。

【喜劇の幕開け・・・。幻想的な約束・・・懐かしい記憶・  
・・美しい悲劇。】

星・・・星・・また一つ・・・星たちが消えて  
いきます。

『ああ！－！お星様が消えぢやつ！－！』・・・と駄々を捏ね、幼い少女は、なんとも言えない愛くるしい顔を「ふつー」・・・とハリセンボンが怒って膨れた時のような顔をしていました。彼女は足や手をバタバタと動かしはじめました。

・・・すると・・・彼女の足元のほうから、男の声が・・・まだ声  
変わりしていないような声で、

「まあまあ！－！落ち着いて・・・」・・・苦笑しながらも可愛い彼女をあやします。彼は道端で泣いていた可愛いこの少女を拾い上げ・・・肩車をしてやりました。

最初彼女は嫌がって彼の髪の毛を引っ張っていましたが、・・・どうか懐かしい記憶を感じ、彼に付いて行くことに・・・。

『だつてだつてだつて・・・お星様が消えたら、誰があたしを転ばないようになこの真っ暗くて、恐ろしい道を照らすの？』

・・彼女が寂しそうな表情で男に問い合わせ・・彼はそんな彼女に、  
「そうですね・・・。

・・・男は困ったように笑いながら・・・。

「僕が君の足元を転ばないように何度も照らしてあげましょ

それだけでは足りないのなら僕が君の明かりにも、手足にも何にでもなりましょう。それでもまだ足りないのなら、君に僕の命を……。

・

『本当に?』彼女の顔がパーッと星のよつて照るくつます。  
「ええ、もちろんですよ」男は困ったように微笑みます。

月の綺麗なこの夜に彼は、一人、この無人な森をたつた一人で、何も持たず歩いていました。

(僕は……何故この場に居るのだろうか……何故……?)

男は考えました。手を頭に抱えて、頭が壊れてなくなつてしまいそうなくらいに悩んでいました。

男は考えた……頭と心がぐちゃぐちゃになるまで。

(何故僕がここに居る?・・わらない。)

(僕の名前は?・・わからない。)

(知人と一緒に来た筈だ?・・わからない。)

(ほかにもっと他に思い出せそうな事があるはずだ?・・わからな

い。)

(そうだ、家は、僕には帰る家があるはずだ?・・わからない。)

(家族は、確かに僕は温かい家庭を持つていて?・・わからない。)

(僕の記憶は確かにここにあるはず?・・わからない。)

(わからないのか?・・うん。)

(頭が痛い?・・わからない。)

(どうしたらわかる?・・わからない。)

(ぐちゃぐちゃになりそだ?・・わからない。)

(本当にわからないのか?・・うん。)

(わからない？・・うん。)

(夢なのか？・・わからない。)

(わかれ！！・・わからない？)

(頭が割れそうだ？・・わからない？)

(わからない..

(わからない。)

「はあはあ・・・・・」

男は、何がなんだかわからなくなり、一人で「とぼとぼ」との狂つた森を歩きました。

(ああ・・・もうわけがわからない・・・頭がぐぢやぐぢやになりそうだ・・・・・)

何時しか男の田下には隈ができてしましました。  
男は・・何日も何日も森をさまよいつづけました。

・・・狂い森を・・・・さまよいつ。歩き続ける・・・・・ある日  
男は田を見開た。男の視線の先には懐かしい記憶が。  
綺麗な幻想(子供)・・・男は今すぐにも倒れてしまいそうな、「ボロボロ」になつた身体をその幻想と向かわせる・・・・細く・・・折れてしまいそうな身体を壊さないようにそっと抱き上げ、「ボロボロ」になつた自分の肩に・・その子を乗せる。

その幻想は、驚き、『な、何するのよ』ひと涙目で、足や手をバ

タつかせて「ボロボロ」な男の肩の上で、暴れました。

「・・・?」

(僕は何をしてるんだろう?・・・わからない。)

男はまた頭を抱えた・・・今度は幻想を「ボロボロ」な肩に乗せて  
いるので、手は幻想を抱えるのに手一杯です。頭に手を抱えず考  
えることにしました。

男は考えた・・・頭がぐちゃぐちゃにならない程度に。

(「の記憶は?・・温かい。」)

(「の幻想は?・・幻。」)

(「の想いは?・・これも幻。」)

(「の懐かしい温かさと記憶も?・・「これは本物?」)

(「の記憶は本物だ!・・・本当に?」)

(もしかしたら・・・もしかすると?・・それこそ幻想。)

(やはりわからない。・・・でもどこか温かい。)

(わからない。・・・でもどこか懐かしい。)

(わからない。・・・でもどこか淋しい。)

(でもどこか温かい。)

『・・・どうしたの?・・・?』

その幻想は心配そうに・・・問い合わせます。

「・・・幻想(君)はどうして狂い森で泣いていたんですか?・・・

『

『あたしね・・・』

幻想(少女)は、涙を小さい手で「ゴシゴシ」と拭きながら、

『あたし・・・転んじゃつたのぉ・・・足が痛くて痛くて、泣いてた

の・・・ひつくう・・でもあたし・・じこまでこれたの・・・お星

様がここの真つ暗くて恐ろしい道を照らしてくれたから・・・もう

転ばないよ。お星様が居てくれるから。』

「・・・そうですか」つと言いながら、男は困ったように微笑みます。

「幻想（君）は今から何処に向かうんですか・・・・・？」

男はまた頭を抱えそうになりました。

（何故こんな幼い幻想（君）が狂いの森じんに居るのだろうか？・・わ  
からない。）

（じ）の幻想（子）なら・・わかるかも？・・聞いてみようっ。）

「幻想（君）はここが何処かわかりますか・・？」  
『・・・・。』

「どうしたんですか・・？」

男は・・・幻想（少女）の顔を覗きます。

・・・幻想（少女）を観た男はまた目を見開きました。

すべての幻想は消え・・・美しい幻想は目から血を流し、その美しい赤色で男を染めます。そして・・・骨となり灰となり幻想は消えてしましました。

幻想が大好きだった星も月も狂った森もすべて消えてしまいました。

とうとう男が・・・一人になってしまったのです。

彼女（幻想）が嫌がっていた・・・真つ暗くて、恐ろしい孤独な道を歩きだしたそうです。

















## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8929c/>

---

狂いの森

2010年12月10日22時26分発行